

17. パートナシップで目標を達成しよう

「生物多様性のための30by30アライアンス」に加盟

「30by30アライアンス」とは、ネイチャーポジティブ*実現に向けて、2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標です。

30by30達成に向けた取り組みをオールジャパンで進めるため、環境省が発足した「生物多様性のための30by30アライアンス」(<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/>)に、慶應義塾も2023年5月に加盟しました。

生物多様性モニタリングを実施し、エビデンスに基づいた自然保護を実践していきます。

※ 日本語で「自然再興」といい、「自然を回復軌道に乗せるため、生物多様性の損失を止め、反転させる」ことを指します。
(環境省ホームページ <https://www.env.go.jp/guide/info/ecojin/eye/20240214.html>より)



小泉信三記念講座*「カーボンニュートラル世代のサステナブル経営ー地域と大学の未来を見据えてー」開催

2023年11月9日、2023年度の小泉信三記念講座として、政策・メディア研究科 吉高まり非常勤講師(三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社フェロー(サステナビリティ)、東京大学教養学部客員教授を兼任)による講演「カーボンニュートラル世代のサステナブル経営ー地域と大学の未来を見据えてー」が開催されました。

地球が抱えている気候変動や生物多様性喪失に対応する世界と日本の動向を踏まえた、高まる金融の役割、ESG投資やサステナブルファイナンスの基礎となる企業の非財務情報開示など、企業に求められるサステナブル経営のあり方について説明がありました。

また、2023年に閣議決定された「グリーントランスフォーメーション(GX)実現に向けた基本方針」を巡る地域での事例も紹介しつつ、GXにおいて大学に期待される役割と、カーボンニュートラルを実現するサステナブルな社会とはどのようなものかの提言もありました。

※故小泉信三博士の人と学問を記念して設けられた小泉基金により、全学的な総合講座として1968年より年に数回実施している公開講座。原則として予約は不要、聴講料無料で学外の方も参加可能です。



エシカル消費に対応した「環境に優しいあか牛」の生産と産学官金の生産者支援を開始

メディアデザイン研究科は、熊本県畜産農業協同組合連合会、株式会社グローバル・クラウドファンディングと共に、2023年1月16日に「南阿蘇村 草原再生・あか牛復興プロジェクト」を熊本県南阿蘇村で発足しました。そのプロジェクトの一環として、熊本県下の生産農家と協力し、牛由来メタンガス発生抑制が見込まれる「ルミナップ」を与えた環境に優しいあか牛の生産を開始しました。

また、新たな販路の創出に向けて、エシカルな取り組みにチャレンジする生産農家の直接支援と、ソーシャルインパクトを目指す、投資型クラウドファンディングも開始しました。これにより、企業や消費者が生産の段階から産地を応援し、あか牛を購入することが可能になります。

本プロジェクトは、新たな価値観であるエシカルなあか牛の生産を資金面から支援しつつ、購入体制の強化を通じた安定的供給を確立することで、持続可能な畜産業と肉食文化の維持を目指す事を目的としています。

「大学におけるDiversity Equity and Inclusion (DEI) の課題

—多様な経験から学び、共通の目標を達成するために」国際シンポジウム開催

2023年6月12日、三田キャンパス北館ホールにて、協生環境推進室主催のシンポジウムを開催しました。理工学部 小原京子教授がモデレーターを務めたディスカッションでは、APWiL (Asia Pacific Women in Leadership) のメンタリング・プログラムに取り組む各国の大学の研究者と慶應義塾大学の女性研究者による活発な議論が交わされました。



藤沢市と地域保健活動推進に関する協定を締結

慶應義塾大学看護医療学部と藤沢市は、地域保健活動の推進に向けて継続的に連携を図るため、2023年4月1日付で協定を締結しました。地域の健康課題に関する研究に取り組むほか、地域保健の効果的な活動に向けて、データ分析に基づく課題の抽出と活動計画の立案を行えるよう協働します。さらに、藤沢市に所属する保健師等の人材育成においては、やりがいを持って活動できるよう、キャリアラダーに応じた現任教育を行います。

これらの連携により、持続可能かつ地域の特性を活かした健康なまちづくりの推進を目指します。

RENKEI* ヘルス・ワークショップに参加

2024年3月18～20日、イギリスのサウサンプトン大学の主催で開催されたRENKEI (日英知識経済イニシアチブ研究教育ネットワーク) によるヘルス・ワークショップに、土屋大洋常任理事と大学院政策・メディア研究科博士課程の塾生が参加しました。

3日間にわたるワークショップでは、日英両国のRENKEI加盟大学から集まった様々な分野の研究者がグループにわかれ、特に高齢化に着目して、関連する各自の研究内容を発表しました。健康寿命を延ばし、健康的な社会を構築していくうえでの課題解決に向けて、日英の研究者がどのように連携しうるかについて、活発に議論を交わしました。

※ 日本とイギリスの大学が、双方のナレッジの共有や国際共同研究を円滑に創出するためのパートナーシップ。加盟大学は、慶應義塾大学、九州大学、東北大学、立命館大学、大阪大学、エディンバラ大学、サウサンプトン大学、ダラム大学、ニューカッスル大学、リーズ大学、リバプール大学。
(<https://www.britishcouncil.jp/programmes/higher-education/university-industry-partnership/renkei/about>)



写真提供:サウサンプトン大学、redManhattan Photography

藤沢市民講座開催

2023年11～12月、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス(SFC)と藤沢市は、藤沢市民講座(生涯教育講座)を開催しました。計3回の講座を通じて、藤沢市の明るい未来を築いていくための手立てについて議論するとともに、近年、地域づくりのキーワードとして注目されているウェルビーイング(Well-being)への理解を深めました。

- 第1回「健康で活き活きと働くために:ワーク・エンゲイジメントに注目して」
- 第2回「健幸(ウェルビーイング)でいるためのコミュニティを考える」
- 第3回「みんなで築く元気なまち ～アクティブリビング&ウェルビーイング～」

「第4回 KEIO SPORTS SDGs シンポジウム2024」開催

2024年3月9日、「第4回 KEIO SPORTS SDGs シンポジウム2024」を開催しました。2023年度のKEIO SPORTS SDGsの進捗報告、具体的取り組みの共有を行うとともに、『パブリックヘルスの視点から見るスポーツSDGs』、『慶應義塾とスポーツSDGs』という2つのセッションを通じてKEIO SPORTS SDGsの新コンセプトを共有し、持続可能なスポーツの新たな価値について考え、多様なステークホルダーとの連携を深めました。本シンポジウムには200名以上の申し込みがあり、セッションの討論では、参加者からの質問を取り上げながらモデレーターと演者との間で活発なディスカッションが行われました。

KEIO SPORTS SDGs: <https://sportssdgs.keio.ac.jp/>



講演ごとに皆で立ち上がって拍手し、座位ブレイク(座りっぱなしを中断)している様子

国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) 開催のシンポジウムに塾生会議のメンバーが登壇

2024年3月29日、「国連大学SDG大学連携プラットフォーム(SDG-UP)」(<https://ias.unu.edu/jp/sdg-up>)の参加大学とサステナビリティの取り組みについて議論を行うシンポジウムが、国連大学サステナビリティ高等研究所(UNU-IAS)により開催され、SDGsの達成に向けた学生主導の取り組みに関するパネルディスカッションに、塾生会議のメンバーが登壇しました。塾生会議の概要について紹介した後、「2023塾生会議」が行った最終提言のうち、①地方出身学生支援のためのイベント「よる食堂」の開催、②教科書の電子化・サブスクリプションの導入について発表しました。

企業から参加したアドバイザーからの助言や、参加者からの質疑を受け、活発な議論が交わされました。



伊藤塾長がAPRU学長会議に参加、Steering Committeeメンバーに就任決定

2023年6月25～27日、香港大学で開催されたAPRU(The Association of Pacific Rim Universities:環太平洋大学協会)第27回年次学長会議のパネルディスカッション"Our Planet, Our Future(私たちの地球、私たちの未来)"に伊藤塾長が登壇し、サステナビリティの推進における大学の役割のほか、SDGs達成に向けての新たな試みや戦略について議論しました。また、義塾での取り組み例として、APRU Asia-Pacific Women in Leadership (APWiL) Programでの経験をもとに導入した女性教員のための慶應義塾メンタリング・プログラムや慶應義塾SDGs会議について紹介しました。



土屋常任理事

APRU Senior International Leaders' Meeting 参加

2023年9月24～25日、シドニー大学で開催されたAPRU Senior International Leaders' Meeting (SILM:国際担当上席者会議)において、土屋常任理事が"Equity, Diversity and Inclusion (DEI) Initiatives at Keio University"と題した発表を行いました。慶應義塾メンタリング・プログラム、世界女性デーにメルボルン大学と共催で実施した「インターセクショナリティ・ワークショップ」、大学におけるDEIについて情報共有や意見交換を行ったDEIシンポジウムなどの取り組みを紹介しました。



地政学リスクの下での大学のあり方ー第19回日韓ミレニアムフォーラム開催ー

2023年10月24～25日、慶應義塾大学、早稲田大学、高麗大学、延世大学の相互の関係強化を目的とした日韓ミレニアムフォーラムを、三田キャンパスで開催しました。本フォーラムのテーマ("Roles of Higher Education for the Globalized World under Geopolitical Risks(地政学リスクの下での高等教育の役割)")に沿った各大学長の発表、代表学生による「日韓で加速する都市一極集中」「気候変動リスク」「地政学リスクと学生生活の相関関係」「地政学リスクマネジメント」などの発表と提言、研究者からの専門的見地からの発表が行われ、それぞれ活発な意見が交わされました。



3大学連続ワークショップ「ウクライナ復興そして未来を考える」

第3回「ルブリン・トライアングルと日本」開催

2023年12月4日、慶應義塾大学、上智大学、東北大学の3大学による連続ワークショップ「ウクライナ復興そして未来を考える」の第3回「ルブリン・トライアングルと日本」を三田キャンパスで開催しました。ウクライナの復興とさらなる発展に焦点を当て、特に「ルブリン・トライアングル」と呼ばれるウクライナ、ポーランド、リトアニア3国の地域連合と日本がどのように連携できるかを議論しました。



伊藤塾長が2024年世界経済フォーラム年次総会（通称ダボス会議）に参加

2024年1月15～19日、「信頼の再構築へ」(RebuildingTrust)をテーマにした第54回ダボス会議において開催された、研究開発のエコシステム構築のために大学が果たす役割について話し合う世界の有力大学の学長たちによるセッション(Building Bridges: University Leaders Meeting on Research and Development Ecosystem)に伊藤塾長が参加しました。



Copyright: World Economic Forum

30% Club Japan 9大学トップ「多様性ある大学運営」のためのコミットメント発表

慶應義塾は、2010年にイギリスで創設された、役員に占める女性の割合の向上を目的とした世界的なキャンペーンである「30% Club」の取り組みに参加しています。2024年2月13日、伊藤塾長が、30% Club Japan 大学グループに加入している他大学のトップとともに、「多様性のある大学運営」の実現への道筋をつくることを目指し、具体的な目標を言語化したコミットメントを発表しました。

